

エコアジア 2006 議論のポイント

- アジア太平洋地域において持続可能な社会を築く観点から、(i) ひとりひとりの取組の活性化、(ii) コミュニティおよび地方自治体の取組の活性化、(iii) アジア太平洋地域での協働、という 3つのテーマについて議論が行われた。主要なポイントは以下のとおり。

(ひとりひとりの取組の活性化)

- ・ 個人のライフスタイルの変革のためには啓発活動が重要。日本の“クール・ビズ”をアジアに広げていこうとする努力は、アジアの伝統的な衣装の価値を環境保全の観点から評価するものとして歓迎された。
- ・ アジアの伝統的な知恵、先進的な技術と政治的なリーダーシップを組み合わせることが、アジア太平洋地域で持続可能な開発を推進するための鍵。

(コミュニティ・地方自治体の取組の活性化)

- ・ 環境対策が主要な政策セクターの中で中心的な位置づけを与えられること（メインストリーム化）が必要。多くの国で実施されている 3R の取組は、経済と環境のニーズを同時に満たす好事例。
- ・ アジアの国々は、文化、環境、経済及び政治システムの面で極めて多様なため、地域の協力には大きな努力が必要。しかし、環境保全の優良事例によるノウハウを共有し、地域のパートナーシップを構築することは有益。持続可能な開発に関する地域の優良事例に対する表彰制度を開始することは、よいインセンティブとなるため、今後検討すべき。

(アジア太平洋地域での協働)

- ・ 日本が報告したアジア環境行動パートナーシップ構想は会議において高く評価された。参加者からは、この構想の持続可能な開発をもたらす潜在力が、既存のイニシアティブやネットワークと連携することにより、さらに強化されるであろうことが強調された。
- ・ エコアジアは、地域の政策対話を促進し、より効果的・効率的な環境保全活動のための政策立案者のパートナーシップを強化する機会を提供する。今後、アジア太平洋地域の活動指向型パートナーシップを促進するため、さらなる協調を検討すべき。